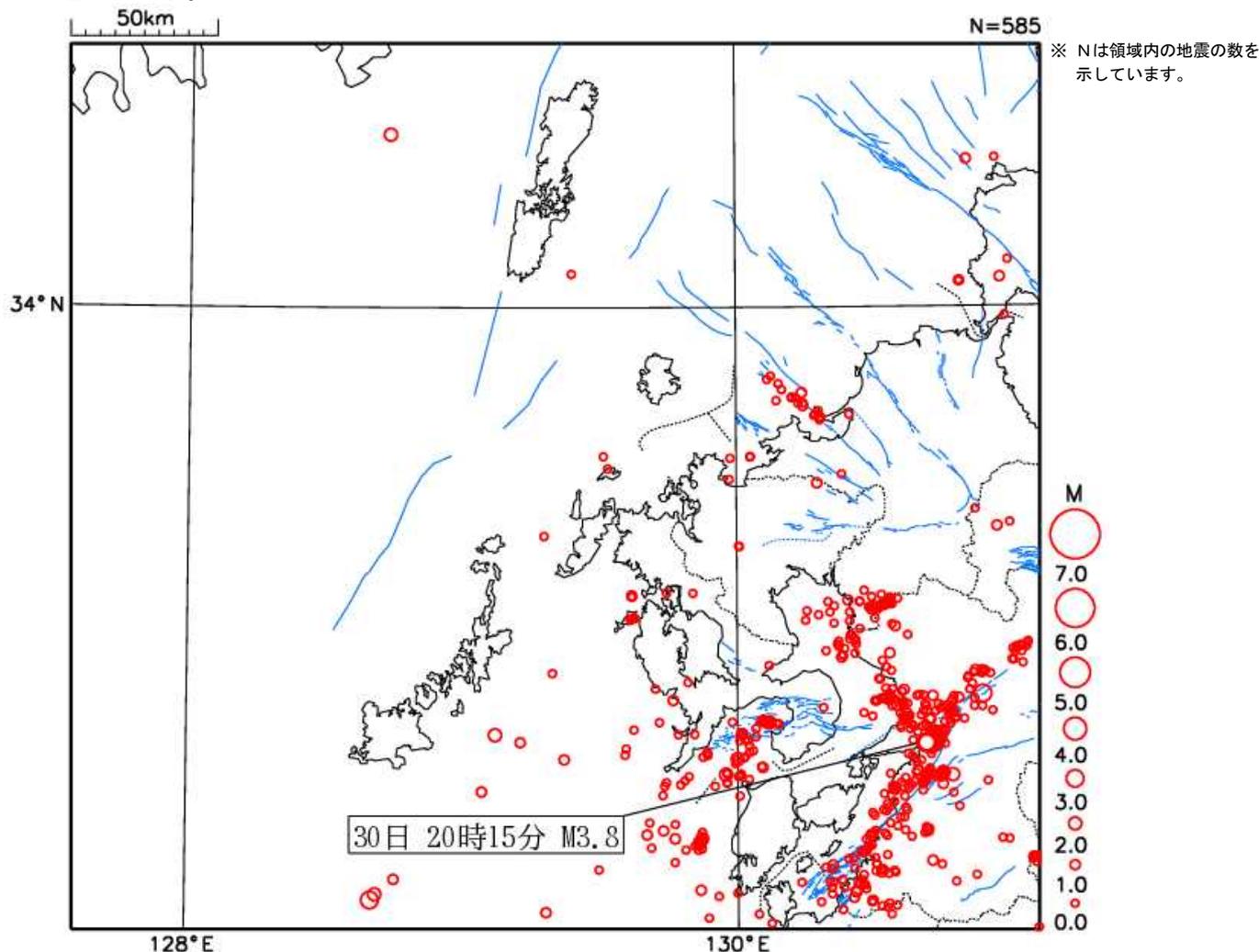


長崎県の地震活動概況（2023年5月）

令和5年6月7日
長崎地方気象台

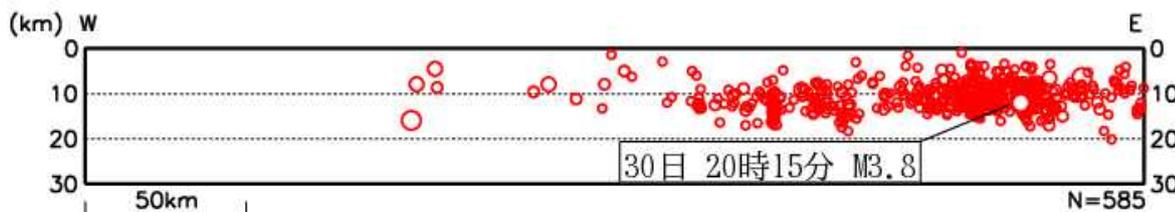
地震活動の概況（2023年5月）

5月に長崎県内で震度1以上を観測した地震は1回でした（4月は3回）。詳細は2ページのとおりです。



震央分布図（2023年5月1日～31日、深さ30km以浅、M \geq 0.0）

※図中の青色の線は、地震調査研究推進本部の長期評価による活断層を示しています。



断面図（2023年5月1日～31日、深さ30km以浅、M \geq 0.0）

（震央分布図を南の方から見た断面図です）

※ 本資料は、国立研究開発法人防災科学技術研究所、北海道大学、弘前大学、東北大学、東京大学、名古屋大学、京都大学、高知大学、九州大学、鹿児島大学、国立研究開発法人産業技術総合研究所、国土地理院、国立研究開発法人海洋研究開発機構、公益財団法人地震予知総合研究振興会、青森県、東京都、静岡県、神奈川県温泉地学研究所及び気象庁のデータを用いて作成しています。また、2016年熊本地震合同観測グループのオンライン臨時観測点（河原、熊野座）、2022年能登半島における合同地震観測グループによるオンライン臨時観測点（よしが浦温泉、飯田小学校）、米国大学間地震学研究連合（IRIS）の観測点（台北、玉峰、寧安橋、玉里、台東）のデータを用いて作成しています。

熊本県熊本地方

30日20時15分に熊本県熊本地方で発生したM3.8の地震（深さ12km）により、熊本県の熊本市、宇土市、宇城市などで震度3を観測したほか、九州地方で震度2～1を観測しました。長崎県では雲仙市で震度1を観測しました（図1）。

今回の地震の震源付近（図2領域a）では、「平成28年（2016年）熊本地震」が発生しています。この領域では、2023年4月17日にM3.6の地震（深さ10km、最大震度3）が発生し、長崎県では雲仙市で震度1を観測しました（図2、3）。



図1 震度分布図（観測点別）
5月30日20時15分 M3.8

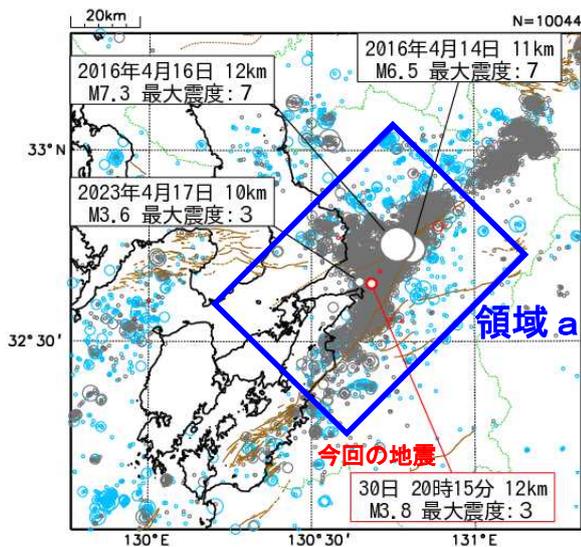


図2 震央分布図

(2000年10月1日～2023年5月31日 深さ0km～20km M≥2.0)

※2016年4月13日以前の地震を青色で、

2016年4月14日以降の地震を灰色で

2023年5月の地震を赤色で表示

※図中の茶線は地震調査研究推進本部の長期評価による活断層を示す。

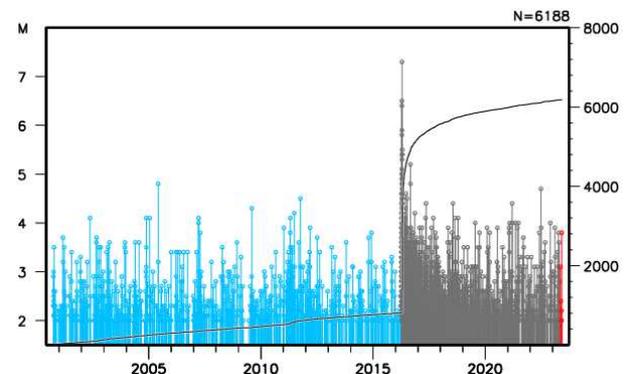


図3 図2領域a内の地震活動経過図及び回数積算図

長崎県内で震度1以上を観測した地震の表（5月1日～31日）

地震発生時刻 各地の震度	震源地名	北緯	東経	深さ	規模
2023年05月30日20時15分 震度 1：雲仙市小浜町雲仙	熊本県熊本地方	32° 39.1' N	130° 41.0' E	12km	M3.8

注) 震源要素（緯度・経度・深さ・M）は、暫定値であり、データは後日変更されることがあります。

*を付した地点は地方公共団体または国立研究開発法人防災科学技術研究所の震度観測点です。

津波が来るぞ すぐ避難！ 「津波フラッグ」は避難の合図

「津波フラッグ」は、津波警報等[※]が発表されたことをお知らせする旗です。

津波警報等は、テレビやラジオ、携帯電話、サイレン、鐘等、様々な手段で伝達されますが、令和2年6月から海水浴場等で「津波フラッグ」による視覚的伝達が行われています。

「津波フラッグ」を用いることで、聴覚に障害をお持ちの方や、波音や風で音が聞き取りにくい遊泳中の方などにも津波警報等の発表をお知らせできます。**海水浴場や海岸付近で津波フラッグを見かけたら、速やかに避難を開始してください。**

※ここでは大津波警報、津波警報、津波注意報を津波警報等としています。

津波フラッグは避難の合図

海から離れて
高いところへ！

いつ使われる？	どこで使われる？	見かけたら？
<p style="color: red; font-weight: bold;">津波警報などの発表時</p> <p>※大津波警報・津波警報・津波注意報</p>	<p style="color: red; font-weight: bold;">海水浴場など</p> <p>波音や風で音が聞き取りづらいため、旗で視覚的に伝達</p>	<p style="color: red; font-weight: bold;">高いところへにげて！</p> <p>すぐに海から離れ、高台や津波避難タワーなどへ避難を</p>

監修：気象庁 制作：Yahoo!ニュース

津波フラッグ：長方形を四分分割した、赤と白の格子模様のデザインの旗です。



津波は繰り返し襲ってきますので、津波警報等が解除されるまで安全な場所から離れないでください。

海岸の避難施設で津波フラッグを振っているイメージ
(公益財団法人 日本ライフセービング協会提供)

旗を建物に掲げるなど他の手法でお知らせすることがあります。